



花森安治 の仕事 デザイナーの手、 編集長の眼

2017

2/11_(土・祝) → 4/9_(日)

THE WORKS OF
YASUJI HANAMORI

A Designer's Hand, an Editor's Eye

開館時間 午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）

休館日 毎週月曜日 ※ただし3月20日（月・祝）は開館、翌21日（火）は休館。

観覧料 一般：1,000（800）円、65歳以上：800（600）円、大高生：800（600）円、中小生：500（300）円
※（ ）内は20名以上の団体料金。

※障害者の方は500（300）円。ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）は無料。
※リピーター割引：会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金にてご覧いただけます。

主催 世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

特別協力 暮らしの手帖社

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

展覧会のご案内：03-5777-8600（ハローダイヤル）

世田谷美術館
Setagaya Art Museum

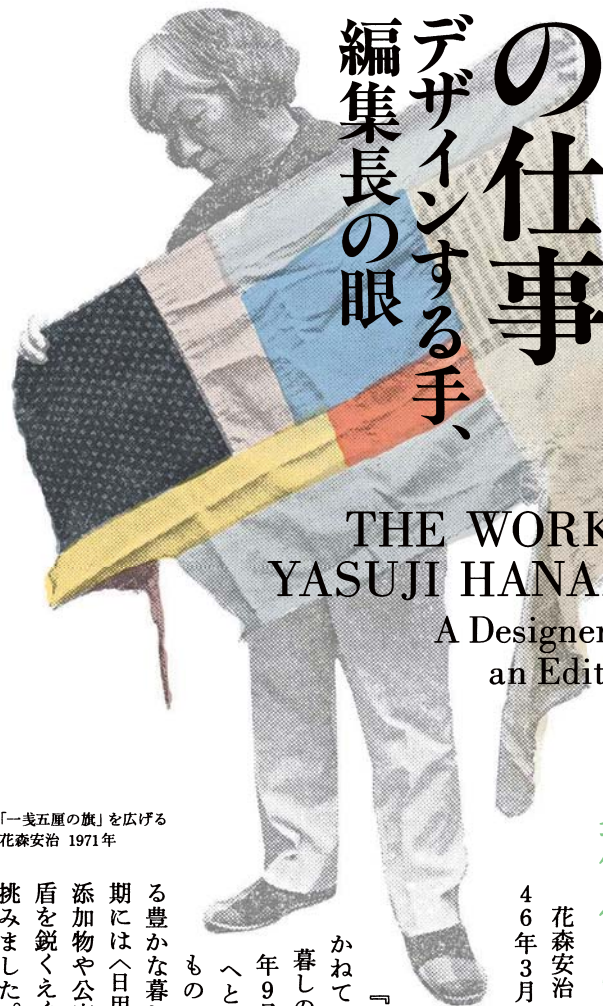
花森安治

の仕事

デザインする手、 編集長の眼

THE WORKS OF
YASUJI HANAMORI

A Designer's Hand,
an Editor's Eye



日本の暮らしをかえた 稀代のマルチ・アーティスト!

花森安治（1911-1978）は、終戦もない1946年3月に、大橋鎮子を社長とする衣裳研究所を銀座に設立、新進の服飾評論家としてデビューしました。へ直線裁ちという誰もが簡単に作れる洋服を提案した『スタイル・ブック』は評判を呼びますが、かねてより計画していた生活家庭雑誌『美しい暮らしの手帖』（のちの『暮らしの手帖』）を1948年9月に創刊し、その後社名も暮らしの手帖社へと変更します。へ衣・食・住を基本にすえ、もののない時代にはへ工夫とアイデアによる豊かな暮らしを提案、電化製品が普及した高度成長期にはへ日用品の商品テストを実施、そして、食品添加物や公害問題が叫ばれた70年代にはへ社会の矛盾を鋭くえぐる批評を誌面で展開し、ペンで権力に挑みました。30年間にわたり一切広告を入れず発行

『スタイル・ブック』は評判を呼びますが、かねてより計画していた生活家庭雑誌『美しい暮らしの手帖』（のちの『暮らしの手帖』）を1948年9月に創刊し、その後社名も暮らしの手帖社へと変更します。へ衣・食・住を基本にすえ、もののない時代にはへ工夫とアイデアによる豊かな暮らしを提案、電化製品が普及した高度成長期にはへ日用品の商品テストを実施、そして、食品添加物や公害問題が叫ばれた70年代にはへ社会の矛盾を鋭くえぐる批評を誌面で展開し、ペンで権力に挑みました。30年間にわたり一切広告を入れず発行

「一匁五厘の旗」を広げる
花森安治 1971年

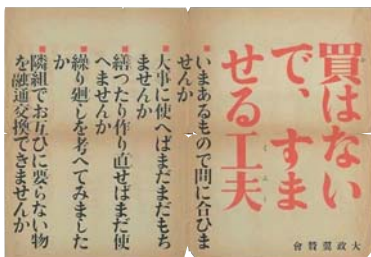
本展では、花森の作品そのものともいえる『暮らしの手帖』が庶民に向けて発信したメッセージに、改めて耳を傾けます。戦時中の大政翼賛会での仕事にも着目しつつ、花森が全身全霊をかけて打ち込んだ出版活動、ひとつの雑誌を超えた「運動」として捉え、多様な仕事のなかからその思想を探っていきます。



『暮らしの手帖』1世紀74号
1964年5月 暮らしの手帖社蔵



〈日用品の商品テスト〉で評価が高かったイギリス製のアラジンのストーブ 個人蔵



↑大政翼賛会ポスター「買はないで、すませる工夫」（制作：村上正夫）1943年 アド・ミュージアム東京蔵

←『暮らしの手帖』1世紀96号 特集：戦争中の暮らしの記録 1968年8月 暮らしの手帖社蔵



花森安治『美しい暮らしの手帖』1世紀1号表紙原画）1948年9月 世田谷美術館蔵



編集部の花森安治 1972年 写真提供：暮らしの手帖社

関連企画

★講演会

「父・花森安治のこと」

父と過ごした日々を娘の視点からお話しいただきます。日時 3月11日（土）14時～15時30分 ※開場は13時30分 話し手 土井藍生（どい・あおい、花森安治の長女）聞き手 矢野進（本展担当・当館学芸員）



★講演会

「花森安治の『暮らしの手帖』」

編集長・花森のもとで働いた18年間について、エピソードをまじえてお話しいただきます。日時 3月18日（土）14時～15時30分 ※開場は13時30分 話し手 小樽雅章（こくろ・まさあき、「暮らしの手帖」元編集部員）会場 当館講堂



★1000円ワークショップ

どなたでも、その場で気軽に参加できる工作など日時 会期中の毎土曜日 13時～15時 会場 当館地下創作室 参加方法 時間中随時受付 参加費 1回1000円

★聴講料 無料

★手話通訳付

★聴講料 無料

★手話通訳付



交通案内

- ・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、または美術館行バス④「美術館」下車徒歩3分
- ・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス③「砧町」下車徒歩10分
- ・小田急線「千歳船橋」駅から、田園調布駅行バス⑤「美術館入口」下車徒歩5分
- ・来館者専用駐車場（無料、60台）：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先、美術館まで徒歩5分